

アートをつばさ16 クリムト展とモロー展です！

GWに2つの美術館展覧会に行きました。今、私の最大の趣味は、美術展覧会に行くことです。5月6日午前中、上野の東京都美術館での「クリムト展」(7/10まで開催)を見学しました。9時30分の開館時間まで1時間並びました。先頭から8番目でした。

クリムトの「黄金様式」は、尾形光琳など琳派の影響を感じます。縦長の画面構成は、ピエール・ボナールと同じく、浮世絵の影響です。クリムトは、女性を描いて有名ですが、風景画もたくさん描いています。今回来ている風景画には、モネの影響を受けた筆触分割や、ゴッホの影響と思われる花の描き方を見ることが出来ました。このように、アートの世界は、つながりがあり、それを学んで鑑賞すると、とても奥が深いのです。

午後は、新橋駅近くのパナソニック汐留美術館(本年4月1日にパナソニック汐留ミュージアムから改称)での「ギュスターヴ・モロー展」(6/23まで開催)を見学しました。私は、モロー先生と呼んでしまいます。モローがパリ国立美術学校の先生だった時、教え子にアンリ・マ蒂斯とジョルジュ・ルオーがあり、2人は生涯モロー教室の卒業生としての誇りを胸にそれぞれの芸術を全うしました。この話は、平成29年3月1日の卒業式の学校長式辞で『マ蒂斯とルオー 友情の手紙』と題して話しました。よって、私は、ギュスターヴ・モローをモロー先生と呼んでしまいます。式辞全文を読みたい方は、並木ドリーム第187号と第188号をご覧ください。

展覧会では、「ギュスターヴ・モロー美術館」所蔵の作品の数々を鑑賞しました。とても良かったです。パリにあるこの美術館は、モロー先生が暮らしていた邸宅(自宅兼アトリエ)でした。モロー先生は亡くなる前からこの邸宅を自身の作品の展示場にする事を考えており、展示室も作っていました。モロー先生の死後、邸宅はコレクションと共に国に遺贈され、1903年に美術館として開館しました。その初代館長には、モロー先生の教え子だったジョルジュ・ルオーが就任しました。いい話ですね～(*^_^*)！！

